

「なぜ勉強するのか」の問いへのヒント

あるメル友の学生から、授業での課題である「なぜ勉強するのか」の発表のために作成したプレゼンテーション用スライド（末尾に貼付：参照）について、コメントを求められた。

今、正に学校で、勉学中の方に、また、生徒や学生に教える立場の方に、「なぜ勉強するのか」のヒントをいただければと、お願いしたところ、次のようなアドバイスをいただきましたので、参考までに紹介します。

添付（コピー）の1枚目のスライドは、学生名を伏せるために少し手を加えてありますこと、ご了解ください。

また、教育シリーズ（？）の3つの記事、「『教育』の漢字・熟語の、意味を含んだ成り立ち（7/12）」、「『校長らが誤答児童に合図』の報道に接して（7/17）」、「勉強する場所として、学校をどうして作ったのだろうか？（7/19）」を掲載しましたが、それを目にしていたメル友からもコメントをいただいていますので、それも参考までに紹介します。

更にヒント、コメント等をいただきましたら、随時このファイルを更新します。

2007. 7. 23. 阿部幸泰

⑪ HPの記事を拝読しながら、先日の勉強する事と併せて感慨深いものがありました。

物事の本当の価値を見出す事の大切さ、それを養う目を育む事の必要性を実感致します。

学力テストの件や、つい先日では私立受験校の合格者水増し等、考えられない様な事が学校の運営を携わる立場の方が係わっておられる事にショックでした。

自身の生徒の皆さんや係わりあう先生方と共有すべき大切な価値観とは、一体何だったんだろうと考えさせられます。

こうした原点を係わり合い育みあう中で互いに高めあう関係にこそ価値観を見出せない

と、安易な結果や数字を頼ってしまうのかなと自身の反省を踏まえて感じます。

私も出会いを通じて皆さんに育てて頂くまでは、その一人でした。

逆に、気づきの中で学ぶ事の楽しさや係わり合いの素敵さと、それに伴う厳しさを実感する中で以前とは違って日々の生活が、とても充実したものの様に感じられ、それは自身だけでなく周囲に支えられてこそと感謝できる様になりました。

最近、実感できる言葉のひとつが「お互い様」です。

自然体で笑顔とともに「お互い様」と声をかけれるようになりたいなと思っています。

そんな事をHP拝読しながら、感じました。

⑩色々と考える事は楽しいですね。色々な意見が合って勉強になります。

学校の語源が“閑暇”とは初めてわかりました。

凄いですね。学校の見方がかわりますね。

色々な面で暇（余裕）がないと教える方も教わる方も駄目と言う事かな（^-^）

〇〇不登校親の会？で、勉強について話し合うと楽しいかもしれないな～。

そして、この学校の意味を話し合ったら、今までと考えが変わるかもしれないな～。

そう考えるだけでも、楽しいですね。これも人との係わり合いからの学びかな？

⑨足立区の学校で校長が誤答児童に合図をしていたり障害児を採点からはずしていたりという報道を聞いたときは「教育ってなんなんだろう？」、「学校のトップである校長がそんなレベルなのか…」と、怒りというよりはむしろかなしい気持ちになりました。

私が現在勤務する学校は昨年度企業就職率が〇内で最下位だったとかで、校長は「教育課程を類型化したい」と言っています。（私の学校の生徒の2割は福祉園生で障害が重い生徒が多いんです。）

現在、「重度・重複学級」と「普通学級」があるのですが、普通学級の方を「企業コース（?）」と「福祉就労コース（?）」に分けたいようです。

「企業コース」は全員企業就労させるらしいのですが、年度途中で障害の重い生徒が転入してきたとき「福祉就労コース」と「重度・重複学級」に空きがないと困るから、年度

当初に「企業コース」は定員に満たしておくということでした。

ということは「企業コース」の実態に合わない生徒が無理矢理「企業コース」に入らざるをえないということが十分にあり得るということなのです。

現在、そのように類型化しなくても生徒の実態に応じてグループ学習が行なわれているのに何故あえて類型化するのか？

やはり校長は企業就職率という数字にこだわっているとしか思えません。

「うちの学校はこうやって就業率を上げるために頑張ってますよ！」というアピールだけのようにも思えます。

企業であれ、作業所であれ、更生施設であれ、卒業生徒が自分らしく生活していけるように今何が必要かを考えて係わり合っていくことが私たちの役目だと思うのに…。

現在私の学校で起こっていることも、何だかかなしいです。

でも「かなしい」とだけ言っても何も始まらないので、声を上げていきたいと思えます。

⑨への私（阿部）の返信

今の世、成果主義、能率主義の一番分かり易い数字での評価を求めがちですよ。

一体、成果の真の評価基準って、何なのでしょうね。

その議論がなく、世の風潮でついつい数字を求めているような気がします。

その数字を求めるばかりに、大企業内でもその6割が30代のうつ症状の社員の増加対策に取り組んでいるとか。

僕的に云えば、そりゃあそうだろうと思ってしまいます。

だって、企業等の成果主義、能率主義が、その人の生きる喜びと一致するとは限りませんよね。

人は本質的に数字で生きてるのでないですものね。そこからの自身内面での葛藤から、うつにもなるのでしょうね。

恐らく校長も一人の人間としては、「教育課程を類型化したい」をいいながらも、そう云わざるを得ない自分に淋しい気持ちがあると思いますよ。

立場上、内面では苦悩しているでしょうね。

ただ、自分の生きる意味を確認するのは、自分自身しかいません。

それだけに、自身の生の証のためにも、今一度、なぜ障害児教育に係わっているかを校長は自問自答して欲しいですね。

こうした意味からも、黒沢明監督・志村喬主演の映画「生きる」が、評価され続けていると思います。

組織の中で日和見で仕事してきた退職間近の初老の職員がガンを宣告され、自分の生きる証を自身で確認しようと、地域の小さな公園作りに奮闘する話です。

人に喜こんで貰えてこそ、自分のアイデンティティって感じる事ができるものですね。

また、自分は若い頃に、「福祉は世の価値観を変えるぐらいの覚悟で取り組み！精神革命を起こすぐらいの気概をもって取り組み！」と教えられました。

また、その価値観のあり方のヒントを教えてくれるのは、障害児だとも教わりました。言い換えれば、「障害児問題」というフィルターを通して、人のあり方、社会のあり方を問い続ける仕事をしろ！」と、ハッパをいただいたと今も思っています。

ですから、従来の価値観を障害児周辺に持ち込む校長は、「何を考えているのやら…」と勝手に思っています。

こうした事例に接するにつけ、「福祉は、世の価値観を変えるぐらいの覚悟で取り組み！」との言葉の意味を益々問い、かみしめているこの頃です。

⑧なぜ勉強するのか？

人間は生きている間、なにかしら、ず〜と勉強していると思うので、人が成長するため。

もし、勉強しないで、食う、寝る、遊ぶで生きていたら、きっと墮落しますよね。

(昨今、食う、寝る、逃げる？(苦しんでいる)で生活している人たちもいるけど、それは、ちょっと別として)

人は苦しみや悩みのあとに進歩し成長すると思うのです。

そう考えると豊かになった生活の中で、受験勉強は一つのステップであり、子供たちへ苦しみ、悩み、努力する機会を与え、それを乗り越えさせて成長させると思うのです。

子供は受験に受かる事を目的として頑張る。家族は受験生を支え見守る。

そう考えると受験は、それぞれの立場で色々と勉強していますね。

親はちょっとした点数の上下で一喜一憂せず、もっと大きな目で見守る必要があるのかな。

受験は手段であり、目的ではないですよ。

観音様のように微笑を絶やさず見守る姿勢が必要ですね。

なんか、他人事のように自分に言い聞かせていますが来年は○子が高校受験です。

親として、どうあるべきか勉強中です。

まわりの人にチョット話を聞いてみました。

○子、驚いた事に私と同じ意見、成長するため。

最低限の学力を身に付けるためとか、来年受験生の○子ちゃん、そう思うのならちゃんと勉強して欲しいのだから・・・

△子、楽しいから。

本音かな、それとも、そうありたいという希望？

これを聞いた○子ちゃん、なるほど、点数の差はこれか！と言っていました。

□□さん、良い点数とって、良い大学へ入って、良い会社に入って、高収入で、・・・
こんなの答にならないよね、難しいね～。

愛しの夫、生活するための最低限必要な知識を学ぶため。

ふと、勉強する場所としてある学校をどうして作ったのだろうか？と思い聞いてみた。

○子、生活するための知恵を身に付けるための場所とか

△子、しらね～よ。(寝起きだから・ウワ～機嫌悪～)

話はそれてしまったが勉強の事を考えていたら、どうして学校を作ったのだろうか？

会津には、日新館、鶴岡には、致道館、・・・寺子屋などなど

どのように勉強していたんだ？

子供たちと一緒に夏休みの勉強になりそうです。

私は難しいことは解らないですが、全国一斉の学力テストをするより、小学校で、毎年学年始めに皆でわいわい“なぜ勉強するか”を子供たちに作文させて、個別の卒業文集なんかを作ったら面白いと思いました。

⑦あるメル友からのヒントの私（阿部）なりの要約メモ

「勉強か学問か」:

勉強は、「強いて勉める」もの、学問は「学び問う」ものと考えれば、勉強には正解があり、その正解に辿り着くために必要な基礎的な“知識”を得ることが必須となるが、学問には正解がない。

だからこそ、学問は自分なりに自問自答して答えを出そうとするもの（ファイマン：「科学は不確かだ」岩波現代文庫）。

「大学生は、勉強も大事だが、学問を」:

勉強は基礎的な知識を学ぶ意味であるものと考えれば、大学生としては勉強よりも学問が大事になってくる。

University（=大学）は、ラテン語の *universitas* が語源で、ひとつに諸々の学問を統一すること。

日本人はその趣意を表現しないで『大学』と訳してしまった。

偉大な学問を創造するという理想は見失われ、世間もその語義さえ忘れてしまっているのではないか。

「勉強は役に立たないものが多いのか」:

古典を考えることは、日本語の成り立ちを知ることであり、円周率も、円の面積をどうすれば効率よく求められるか…といったことに類すること。

フランス革命もヨーロッパの歴史を知ることによって、現代がどのような背景から成り立っているのかを知ること（司馬遼太郎：“fact”から“true”を導き出す作業）。

そうした背景を教えてくれる先生は、素晴らしい先生であろう。

Cf. 単に勉強が出来るだけの人はいずれとり残されてるかも…。

職業教師に教えられた人か、人間教師（和辻哲郎：「孔子」）によって子どもの学びも自ずと違ってくる。

「学校というところ」:

本来は基礎的な知識を制度的に学ぶところ。s c h o o l の語源のラテン語の s c h o l a、ギリシャ語の s c h o l e は、本来「閑暇」の意味。

貴族階級の生活の中だけでは文化を伝承できないと考え作られたものが今日に至っている。

そう考えると、学校で教えることは、知識の詰め込みではなく人類の文化の継承という側面が強くなってくる。

「人としての学び」:

知識や技能は、“ことば”によって伝えられるものだが、単に表層的に無機質な音の集まりの伝達ではない。

“ことば”には情感的・機能的・形相的側面（ブルナー：「思考の心理学」）が含まれている。

大事なことは、どんな時、誰に、どのようなことばによって教えられたか…という問題を内包。

したがって、単なる知識の伝達ではなく誰を介して学ぶかということがより一層大切。

⑥「勉強」と「学ぶこと」は異なること→“学ぶこと”は強いて勉めることではない。

「学ぶ」ことによって、「物の見え方が変わること」→僕自身の経験では。

受験勉強で世界史を「勉強」していたとき、単に暗記することを止めて、一つ一つのつながりを理解しようとしていったところ、その理解が現在の世界情勢に一つ一つ結びついていることを知り、「学ぶ」ことが楽しくなって、結果的に試験の点数もよくなった経験があります。

それと、人と人との係わり合いから学ばせていただいたことはいずれも単に自分の経験の1つの知識としてではなく、まさに生き方に反映されていると思っています。

「知識」と「智慧」は異なること→上に述べたことですが、学ぶことが生きることのように反映するか。

もちろん、実生活の上で役立つというのではなく、数学や古文であっても、それを学ぶことが自分の生き方にどのように反映しているのかを、それを教える人は、正解は当然ないと思いますが、自分の思いを語るべきではないでしょうか。

「受験のために学ぶ」などという答えは、教えるものとして最も情けない答えだと思います。

⑤なぜ勉強するのかという問いに対する私の感想です。

なぜ勉強するのか、なぜ学ぶのかという問いに対して、私は何かを知りたい気持ちがあるから学ぶのではないかと思いました。

その前に、この問いを目にしたとき、そもそも学びって何だろうと思いました。

私は、何かに気付く、知識を身につける、知識を自分の経験に活かす、というプロセスが学びであると考えます。

私は社会のために勉強するというよりも、個人の学びの積み重ねが社会のためにつながると考えています。

また、なぜ受験勉強をするのかという問いに関しては、正直私もわかりません。

私が受験勉強をがんばったのは、受験の先に自分の学びたいことがあったからです。

なので、もし私が「円周率って勉強して何の役に立つの？」と尋ねられたら、答えにまつまってしまうような気がします。

ただ、「円周率って勉強して何の役に立つの？」と疑問に思うこと自体、私は学びのきっかけと言えるのではないかと思います。

まだまだ自分が学んでいる最中なので、一個人の感想として。

学びついて頭の中でもやもやとしているものを見つめなおすきっかけになりました。

この感想が、何かの参考になれば幸いです。

④「なぜ勉強をするのか」拝見しました。

私は、大学を卒業して専門学校にはいりました。ずいぶんと遠回りな道ですが、〇〇という職業には様々な知識が必要です。勉強だけでなく、経験など無駄なものはひとつもな

いと思っています。

中学・高校時代には、たしかに「なんでこんな勉強してるんだろう」と思っていました
が、勉強したからこそ大学に入学でき、様々な経験ができ、今の私があります。

〇〇になろうと思ったのも大学にいったからですし。

大学に行くために勉強するというのもそうですが、自分の未来への可能性を広げるため
の勉強でもあると思います！

人生に無駄なものなどなあーい！！ですよ。

きっとそれに気づくのは、大人になってからなんでしょうけど。

③「なぜ勉強するのか」

今、勉強している法律の学習では仕事の延長線上の経験を土台にして、将来の夢(福祉
の分野で活かしていきたい)と重なり、自身の学びだけでなく係わりあう人から学ぶ事の
積み重ねの中で、学ぶ事の楽しさと難しさを実感しているところです。

法律の学習では、自身の関心が深まっていく分野や自身が役立てると思っていた分野が
仕事や日常の係わりあいの中で、自分にとっては意外と思えるところで活かされたり、逆
に、お客様にとって必要とされている分野とのギャップを感じたりと、そこから次の自身
の課題が見つかる事で学びたい事が広がり深まっていきます。

今の私にとっては、勉強って一人だけで自己完結するものでなく係わり合いの中から
高めていくものと思っています。

勉強を始めて思うのは、学生時代に有益性を感じなかった知識や経験が、すごく活かさ
れる事が多いと気づかされる事です。

逆に、こうした学びをおろそかにしていた事をつまづいてしまう事も多いです。

社会人になって、例えば資格取得の為の受験勉強は、その資格を有して業務に携わるた
めの最低限の積み重ねを問われているだけですから、今の学びを通じて今後どう活かせる
かという事を探したり考えながら学ぶ様に心がけています。

そうした気持ちになれたもの支えて頂き係わりあいを育てて頂いたお陰で、自分も今ま
での経験を活かしながら、少し専門的なボランティア活動に繋がっていきたいと思う様にな

ったからです。

勉強した結果、自身を高めていく事も大切ですが、その事を土台にして社会と繋がっていく人との素敵な係わりあいを広げていく、支えあう一助になれば本当に素敵だと思います。

②まず、この学生さんのプレゼンについて。

「なぜ勉強をするのか」とサブタイトルの「受験勉強は・・・」は、テーマ設定がすれている気がします。

「勉強」「学ぶこと」と、「受験勉強」とを同一視しているのでしょうか。

そこから引用している本が最近の「受験勉強有用論」になっていて、学生さんの中で混乱している気がします。

この大学生のプレゼンは、残念ながら、薄い。

でも、彼にこんな考えをさせた歴代の教師も『薄い』。

他山の石にして、励みます。

「受験勉強」は、文字通り、受験のための勉強でしょう。目的は「合格」です。

では「勉強」は？

私は5時間目になって「先生、もうだるい。勉強やめよう。」と訴える生徒によく、「よし、勉強終わり！遊ぼう！」といます。

「やった！！先生、何して遊ぶの？」

「よし、国語の教科書で遊ぼう！」

「ええっ、それって授業やん。」

「何いってるの、勉強して遊ぼう！勉強は遊び。」とかいいます。

「国語なんてやって意味あんの？」

「では君はサッカーなんかやって意味あるの？サッカー選手にでもなるの？」

「無理」

「じゃあなぜ？役に立たないなら意味ないじゃん。」

「そんなことない。面白いから」

「でしょ。いいですか、基本的に『文化』は『むだ』です。なくてもいいものです。」

「えっ、そんなことっていいの？なぜ？」

「では君はなぜ服を着るの？」

「寒さを防ぐため。」

「ではなぜ服にいろいろなデザインや柄や色があるの？防寒だけならデザインは不要でしょ。」

「え・・・」

「なぜ女子はミニスカートはくの？寒いのに。」

「え・・・」

「それもむだでしょ。本来の意味からは。でもそこにデザインがあるから、かわいいなと思ったり、かっこいいと思ったりするんでしょ。」

「うん、」

「その心が『人間の証拠』でしょ。動物とは違う。」

「うん・・・」

「なぜ中学では勉強は9教科あるの？」

「え・・・」

「それを絶対的なもののように思っていない？」

「え・・・」

「そもそも学問の世界は初めから別れているものではないよ」

「そうなん？」

「発達途上の子どもに、あらゆる角度から勉強というトレーニングをさせたい。そのために分野を9に分けてみた。便宜的にわけただけ。」

「知らないことを知りたいと思う、出来ないことを出来るようになりたいと思う。」

自分の考えたことを伝えたいと思う。これは人間のすばらしい性質。」

「うん。」

「でも、『3平方の定理』を、せっかく何千年も前に先人が発見したのに、後の世の人間がいちいち自分で見つけ出すことをやる必要はない。」

「うん。」

「文化を伝承していく、というのも勉強の大切な側面だ。人類の文化遺産を後生に伝えていくという。これはある意味『義務』です。」

「そしてそこから先の新しい世界を考え出す。それをまた後の人類が伝え、発展させる。」

これってすごいことだね。その性質が人間になかったら、未だに人類は打製石器を使っ
ていて、よもやパソコンなんて開発できなかったはずだ。」

「うん」

「勉強することは本来喜び以外の何者でもなかったはずなのに、こんなに嫌に思わざる
を得ないのは、それで君たちが『評価』されるからだよね。」

「うん。成績が悪いとおこられる。」

「今の世の中で、社会が君たちを評価し、自分たちの仕組みの中に入れようとするとき、
何を基準に採用する？きみならどう？」

「えっと・・・かしこいかどうか？」

「君の会社がデザイン事務所なら？」

「絵が上手いか」

「どこかで評価されるわけだ。でもどんな評価も、忘れてはいけないのは、君たちの存
在全体を決して評価しきれないということ。ほんの一面だけだということだ。」

「でも、それで会社とかがきまってしまうんでしょ。」

「そうだね。だから君たちは勉強くらいのことに負けてはいけない。たかが勉強。勉強
はそもそも遊び。あなた達の値打ちはもっといっぱいある。」

でも、今のシステムで一番手軽に評価できるのは学力。だからそこで学力だけを判断さ
れたくらいで負けていてはダメ。」とか言ってます。

「授業を楽しみましょう。でも本当に楽しいことと、『楽（らく）』することはちがう。
楽しもうと思えば、しんどいこともある。君が勉強したくないとか言ってるのは『楽（ら
く）したい』だけで、『楽しみたい』のではないね。だから、みんなで国語の勉強で『楽
しみましょう』」

なんていいながら授業しています。

僕たちは、なんとしても試験に合格させるために学習させるときも当然あるのです。

高校への進路を何とか切りひらいてやらなければ、みすみすダーティーな世界へ入っ
てしまうような子どもには、「たかが勉強ぐらいに負けるな。」という叱咤激励をします。

そして口移しで食べ物をやるように教えます。

そのときは「受験や試験のため」でしょう。

でもそう言う勉強をさせるとき、その目標は合格ではなく、その先の3年間の高校生活

だし、その生活が彼にもたらすはずのなにかだし、そのことが彼の人生を変えるだろうという期待です。

その勉強の結果、高校に合格できれば、彼が学ぶのは、「自分でもやれば出来た」という自信、「これだけがんばれば（苦しめば）、これだけの喜びが得られる。」という体験です。

学んだ知識など、簡単に忘れていきます。

でも、そこで得た「学び方」や知識の使い方、事柄の覚え方、そして努力したという記憶、これは「学ぶ」ということの大きな目標のように思います。

私は最近、「教えようとする」ことよりも、「学びたい」という生徒のモチベーションを高めることに特に力点を置きつつあります。

百人一首の絵札を「習字」の時間に8切り画用紙をさらに半分にした紙に書かせます。

絵も、文字も、色鉛筆を使い、出来るだけ凝ったものを描かせます。

美術の教師が、「ええっ、この子、美術の時間、下書きもしないし色塗り完成させたことがないのに！」という男子が、実に凝った札を完成させます。

ぼくの方が、美術教師より、その作品を「描いてみたい」と思わせられたということでしょう。

子どもは興味を持てば、自ら学びます。

興味関心のない世界を押しつけても難しい。

モチベーションを高めるのは

*おもしろそう

*やればできそう

*いまはむりかもしれないが、努力次第で出来るかも。

と生徒が思えるテーマ設定でしょう。

①私（阿部）の学生への返信

スライド、見させていただきました。

経済を学びながら、こうしたテーマでのプレゼン発表も大変ですね。

テーマタイトルの「なぜ勉強をするのか」と、サブタイトルの「受験勉強は・・・」とは、少し質的に異なる問題かと思いますが、サブタイトルに「受験勉強は・・・」と記したということは、君の中で受験勉強の位置づけに関心があるようですので、まずはその側面に関して。

今の子どもたちは、「勉強しろ！」と云われても、それが自分の幸せに繋がることではないことを、大人を見て知っていますよね。

大人も社会も、十数年前のオーム事件を通して、有名大学に進学させることが人間性を豊かにすることに繋がるとは限らないことを知ったはず。

ですから、高卒、大卒とうことは、資格の一種と思っています。

「雑学B N」の随想等関係（VI）、2007.04.27.「資格とは、最低限の知識・技術があるというだけの話」で触れたように、資格も受験も手段の一つと思います。

なのに、先生方は、何だか手段を目的と錯覚して生徒に話すから、生徒は「こんなこと勉強して役立つの？」と聞いてくるのでないかと思います。

やはり、大人は、生きる目的、意味を子ども、生徒に話しかけ、その一つの手段として大学進学もあると話してあげて欲しいですね。

資格を多く持つということは、自分が選択できる生きて行く（生活して行く）手段を多くもつことになりますので、やはり事情が許されるなら、進学を勧めます。

逆にいえば、勉強せずに敢えて自らが選択出来る手段を狭めることはないと思います。

ただ、大卒という資格だけでは人生を豊かにするとは限らないということは、しっかり生徒や学生に話すべきだと思います。

さて、人は「なぜ勉強をするのか」という側面ですが、それは時々HPにも触れていますが、人は本来知らないことを知りたがるという本質的なものを持っていると思います。

例えば、乳幼児でも色んなものを舐め、触り、いじり、また、見えたものにハイハイして近づく、更に、色んな遊びを生き生きとしていますよね。

ですから、勉強したり、学ぶということは、本来楽しいことのはずだと思います。

それが学校に行き出すと「勉強嫌い」になるのは、どうしてでしょうね。

教える大人の側が、どこかで間違っているのではないでしょうか。

「雑学BN」の「講義等関係」に毎年の授業の感想を載せていますが、最近の「講義等関係（Ⅲ）」、2007.02.10.「自らを見つめ、自ら思慮することを身につけよう」を覗いてください。

語りかけ様で、学生もこんなにも生き生きと学ぼうとするものを持っています。

つまり、僕が「人は本来知らないことを知りたがるという本質的なものを持っている」という訳です。

また、人類文明学論（？）的には、学んだことを後世に伝える、これも生きている積極的意義の一つですよ。

この側面に関し、「雑学BN」の随想等関係（Ⅰ）2001.12.25.「人間（人類）は、なぜ老齢期が長いのか？」、メル友・コメント等関係（Ⅰ）2002. 1. 「『人間（人類）は、なぜ老齢期が長いのか？』へのコメント」に触れていますので、覗いてください。

いずれにしても、大人自身が周りの助けを借りながら、「人と係わり合いながら、自らの人生を豊かにするとはどういうことか」を、戸惑いながらも常に問い続けている生きよう（様）を、子ども、生徒に見て貰うことかなと思っています。

◎数々のメル友からのヒントを目にしたのプレゼンテーションの学生からの感想メール

【 たくさんのメル友の方に聞いてくださりましてありがとうございます。

みなさん様々な観点から問題に対して回答してくださって、非常に参考になります。

②の国語の教師の方の返事はとても興味深かったです。

自分が学習塾で教えていたとき「なぜ〇〇を勉強するのか」と訊かれて、自分でも答えをもっていたわけではなく、かといって「受験のため」という曖昧な返事をしたくなくて葛藤した記憶があります。

その時は「受験や試験のため」と答える(逃げる?)ことができたらどんなに楽なのだろう、と思いました。

この先生のように勉強の本質的意味を教えてくれる指導者ってなかなかいないと思います。

勉強というものは、「楽しむべき対象ではないもの」、「評価(場合によってはその人全体の評価にもかかわる)されるべきもの」という 2 つの軸で、知らず知らずのうちに生徒は考えがちであるということを先生はご存知なんですね。

すごく生徒に信頼されているんだろなあと思います。

こういうものの言い方のする先生に教わったことなかったですから。

勉強はあくまで **one of them** であってすべてではないことを知っていたら、教わっていたら、人生の考え方も大きく変わっていたのではないかなと考えたりもします。

③の大学で学ぶ社会人の方のにも共感するところがあります。

「人との係わり合い」から学ぶ。これってとっても楽しく学べるんですよ。

これは阿部先生に出会って初めて気づいたことでした。

それまで勉強というと、一人で身につけるイメージがありました。ですから、孤独で辛いものだと思っていました。

もちろん、それまでの人生で人との係わり合いから学ぶ大切さを説いてくれる先生などいませんでした。

「勉強って一人だけで自己完結するものでなく係わり合いの中から高めていくもの」と考えると、モチベーションだったり意識というものがまるで変わってきます。

外からではなく、自分の内側からやろう！という気持ちになれるのです。今勉強していることが人との係わり合いを通して育てられていく、そして人の、ひいては社会に役に立つと思えば、外から強制されなくても自発的にやるものだと思うのです。それが人間の本質だとも思います。

結局、

「人との係わり合いから得られる喜び」

「知らないことを知る喜び」

という視点から見ると、勉強することってやはり人生にとって不可欠なものなのですね。

それを阻害しているのが学校教育なのでしょうか。

科学技術はこんなにも進歩しているのにも拘らず、教育って全然進歩していない気がしました。

⑥、⑦の方の思考の広さ、深さの次元が高かったです。

勉強の意義を探るにあたって、受験といった表面的な角度からでは、その真意は決して理解できないと確信しました。

こういった本質的な理解が及んでいない’成果’が大学のレジャー化や多くの勉強嫌いを生んでいると思うと残念な気がしてなりません。

教員の無知を指摘していますが、教員といえども教員採用の試験に合格したというだけのことであって、それ以上でもそれ以下でもない。

つまり、最低限の保証をしているにすぎないのですね。

自分なりの考えを持っている指導者と出会えるかどうかは、その後の生き方を変えろという意味で受験なんかよりずっと大切なことなのかな、と思います。

遠いところではなく、身近な生活の中に、その意義を考える大きなヒントがあるのではないかと思います。

先生の発信に対し、即座にこれだけの返事があるということは、誰もが抱いている疑問であるということの顕れなのではないのでしょうか。

自分の発問に対して返事を下さった方々、そして先生に感謝の気持ちでいっぱいです。

みなさん方と学びを共有していることが、まさに「人との係わり合いから」学んでいることなんですね。

本当に楽しく学べます。学びってこういう楽しいものなのですね！ 】

授業課題テーマ「人はなぜ学ぶのか」:プレゼンテーション発表

なぜ勉強するのか

～受験勉強をする真の意義とは～

〇〇大学大学院経済学研究科博士課程前期〇年

〇〇 〇〇

中学校時代に考えていたこと

勉強する目的・意義など考えたこともなかった。
勉強しろ、とも言われなかった。



試験があるから、ただなんとなくやっていた、
というのが結論！



高校時代に考えていたこと

一年のときの古典の授業での出来事

動詞の活用がスラスラ言えなかったがためにひどく怒られる

⇒(記憶していないのは自分の責任ではあるが)それにしても、受験以外で何の役にも立ちそうにもないことで怒られることが虚しく感じられる。

⇒やる気が失せてしまい、古典の成績が一気に下降！

⇒これでは、マズイと思い先生に相談するが「**受験のためだ**」と一掃される。

このように考えるとあらゆる科目が人生での有用さという観点からすると無意味に思えてきた。

倫理を教えていただいた先生に薦められた本・学校は不要？！

学校で学ぶことがますます無駄に思えてきた・・・ひとまずは「受験のため」と割り切る



浪人時代に考えていたこと

受験勉強のする目的はただ一つ！
合格するため！

勉強する目的・意義などは意識下から排除しようとした

国語科の先生の言葉

「人って生きるのに必要な栄養だけ摂っているわけではないでしょう。お菓子だって食べるし、お酒だって飲む。でも、それって必ずしも必要な食べ物ではないよね。古典とか学ぶ意義もそれと似ていて、人生のスパイスみたいに考えれば良いんじゃないのかな」・・・わかったようなわからないような



大学入学後

学習塾でのアルバイト経験・・・どうしても答えられない質問

小学校4年生の女の子「先生、円周率って勉強して何の役に立つの？」

高校1年生の生徒「サイン、コサインって役に立つんすかあ？」

⇒受験のため、スクリーニングのためといった通り一辺倒の返事はしたくない。かといって、教わったこともないし、自分自身でもその答えを掴めていない。

再び「受験勉強をする」積極的意義を思索することに！



受験勉強有用論(1)

受験勉強に対するよくある批判

「知識を詰め込み、ありきたりの解答を選び、言われたとおりのことをやり、そして将来役に立つかどうかも分からないような年号や古典単語の暗記、方程式のようなことばかりやっているから、受験秀才は創造力がなく社会に出て使えないなどといわれる」

反論・・・なぜ、ノーベル賞受賞者は元受験秀才からしか生まれないのか
最近のベンチャーの成功者は元受験秀才出身者が多いのか・・・

ということは・・・受験勉強ができるということは想像力豊かな人間になるための十分条件ではなく必要条件と考えられるのではないか。

つまり、創造力を備えたいわゆる成功者の多くが受験秀才であったことを考えると受験勉強そのものを否定する根拠とはなりえない



受験勉強有用論(2)

頭が良くなるから…つまり脳みその能力がアップする。

UCLAの科学者チームは、解剖学の研究のため、高校中退者の脳と大学卒業者の脳のシナプス(脳神経細胞が枝分かれし、他の神経の枝と手をつなぐ部分)の数を比較したところ、なんとその差に40%も差があったことを発表している(藤田徳人(2004)『どうして勉強しなくちゃいけないの?』PHP、P77)

「段取り力」が身につく

段取り力とは期限から逆算して、計画を立てて、仕事を遂行する、納期まで仕上げる、といった能力のこと。期限に追い込まれるという経験を通してのみ身につく能力であり、そのような経験を何度も重ねないとダメである。つまり、この段取り力は受験や試験を経験していくことで伸びる。

天才のイメージに対する誤解

創造力というと天才的な人がパツとひらめいたアイデアのように思いがち。しかし、ひらめきそれ自体がすでに記憶している知識がベースとなっている。無から有は生まれない。

出所)齊藤孝(2005)『勉強のチカラ』宝島社、pp67~100を参照



受験勉強有用論(3)

世界史でフランス革命を学ぶ意義

フランス革命・・・1789年に起きる⇒人権宣言が決議され共和制が始まる⇒ルイ16世が処刑される⇒ジャコバン党による恐怖政治・・・とつづく。

これらがフランス革命にまつわる知識であるが、覚えたからといって何かに役立つとはいえない。

では、何のために学ぶのか？

ヨーロッパで起きた歴史的事実について詳しくなるためではないし、大学受験に合格するためでもない。世界史という学問を通じて「**理解力**」「**想像力**」「**表現力**」を身につけるためである。教科書の記述を正確に理解し、革命が当時の世界に与えた影響や現代社会にもたらしたものを自分の頭で考える。この過程で、身につけるものが想像力である。そして、試験でフランス革命に関わる史実と自分の見解を文字で表現しなければならない。これが、表現力である。

勉強する目的は社会を良くする為である。「理解力」「想像力」「表現力」を身につけた本物の教養人を日本にたくさん育てて行く必要がある。われわれは、共同体に暮らしている。一人一人の学力が高まれば、何かを選択する際に、できるだけ共同体の幸福度が高まる判断ができるようになる！



最後に

私の現在の考え

自分の身の回りにあるもの(パソコン、テレビ・etc)は、文明の利器の産物であり、高度に発達した科学技術によるものである。そういった科学技術を理解するためには、数学、物理、化学・・・などが複雑に絡み合っている以上それらの個別の理解は必須である。つまり、受験勉強で学ぶ事柄は役に立っているといえる。受験勉強で得た知識という恩恵に与っているといってもよい。しかし、それらは通常、意識の表面に上ってこない。電話を使う際、この機能は「物理学の～理論がベースになっている」などといちいち考えないという例を考えれば、この点が直ちに明らかになるであろう。古典や歴史の知識といったものは、教養として、論理的思考能力を養うものであって、有用性という観点から論じるものではないと思われる。ただ、単に楽しいから勉強するという人もいるのは事実であり、人によって解釈の仕方は様々である。

みなさんは勉強する意義とは何だと考えますか？経済学という学問を学ぶ目的は？

それを通してどのように社会に還元しようと考えておられますか？